〈資　料〉

淑徳大学建学の精神

金　子　　保

【はじめに】

平成28年、2016年４月８日（金）14時40分～15時00分の予定で、水上温泉ホテル松乃井（群馬県利根郡みなかみ町湯原551）を会場に、「淑徳大学人文学部新入生セミナー」が開催された。本資料は、当日の演題「淑徳大学建学の精神～学祖長谷川良信先生と善財童子像～」の講演原稿と配布資料である。なお、講演原稿の【１】から【30】は、配布資料に示した30枚のスライド番号に対応している。

【１】人文学部新入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんを心から歓迎いたします。今日は、これから「淑徳大学建学の精神」について話をさせていただきます。私は、歴史学科で発達心理学を担当しております金子保と申します。よろしくお願いします。さて、今から37年前に私は37歳で淑徳大学社会福祉学部に就職いたしました。淑徳大学の教員になって、不思議に思うことがございました。キャンパス内に、お寺の小僧さんのような奇妙な立像があります。大学なのに、変だなあ、と思いました。現在の理事長・長谷川匡俊先生にお尋ねしました。「これは何ですか？」「華厳経という仏教経典に登場する善財童子です。」早速調べてみました。その時以来、千葉の社会福祉学部に33年間勤務して、定年で退職したのですが、この間、新入生セミナーで、本学の建学の精神をテーマに、スライドを使って講演してきました。昨年度から人文学部の特任教授となりまして、淑徳幼稚園やマハヤナ学園が近いものですから、２歳から小学校３年生くらいまでのお子さんにわかってもらえるように「善財童子のキャラクター化」を試み、「善財童子さまの大冒険」などと題しまして、公演の機会を頂戴しました。おかげさまで、子どもたちには大受けで、楽しんでもらっております。スライド変えてください。

1

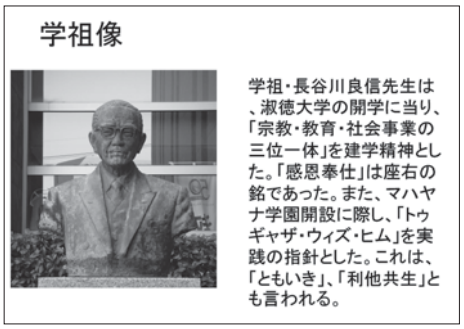
【２】「人文学部新入学生のみなさーン！はじめまして、私は善財童子です。ご入学おめでとうございます。」って、善財童子さまが挨拶しております。さて、淑徳大学東京キャンパスの正門を入ると、淑徳大学の「建学の精神」にまつわるものが四点、目につきます。スライドをよくご覧ください。それでは、淑徳大学建学の精神にまつわるものとは、それはいったい何でしょうか？（ちょっと間をおいて）スライド変えてください。

平成28年10月15日受付　平成28年11月24日受理
かねこ　たもつ：淑徳大学　人文学部　教授

【３】みなさん、わかりましたか？　答えをスライドの下の欄に書いておきました。正面の一番高いところに「法輪」のマークがあります。二番目は、画面右側に淑徳大学創立者の胸像「学祖像」が見えます。創立者を、大学の開祖者を略して「学祖」と呼んでおります。三番目に画面の左手、善財童子像です。それと、四番目に昨年度、本学は開学50周年を迎えましたが、これを記念して学祖の座右の銘「感恩奉仕」の四文字を刻んだ御影石の碑があります。スライド変えてください。

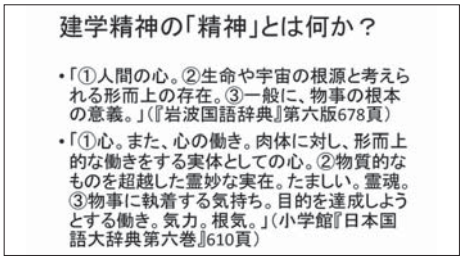
【４】まず、法輪です。『岩波仏教辞典』で調べますと、「仏が教えを説くことを『転法輪』」と言うそうです。法輪のマークがついているということは、淑徳大学が仏教系の大学であることを示しているわけです。スライド変えてください。

【５】二つ目は、学祖像です。学祖・長谷川良信先生は、淑徳大学の開学に当り、「宗教と教育と、社会福祉の三位一体」を建学の精神としております。そのように、昭和40年、1965年４月、開学後の第一回教授会で述べております。また、大正８年、1919年マハヤナ学園を開設の際には、「トゥギャザ・ウィズ・ヒム」を実践指針としております。これは「ともいき」、「利他共生」とも言われ、これも建学の精神を説明する理念として知られています。スライド変えてください。



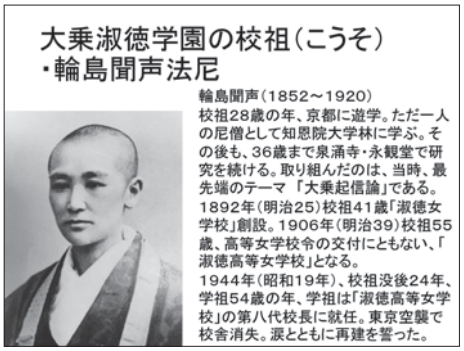
【６】三つ目は、善財童子像です。実は、学祖の最晩年、学祖は善財童子像の設置の希望を強く表明されておりました。それで現在、学祖のこの希望に沿って、学祖開設の大学の各キャンパスをはじめ、幼稚園、児童養護施設、保育園、ブラジルの施設にも、善財童子像が設置されております。スライド変えてください。

【７】ところで、みなさん、建学の精神の「精神」とは何でしょうか？　手元の『岩波国語辞典』で調べてみます。「①人間の心。②生命や宇宙の根源と考えられる形而上の存在。」とあります。形而上と言うのですから「見えないもの」です。目に見える現象の奥にある、根源的なものだというの



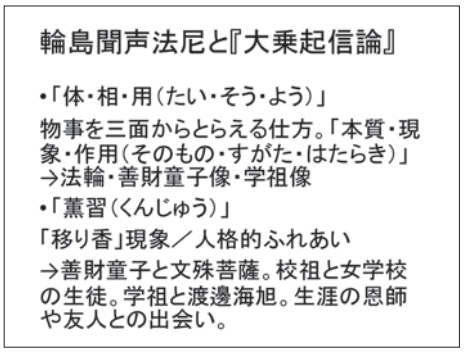
です。また、「③一般に、物事の根本の意義。」とあります。どうもよくわかりかねますから、もっと、詳しい国語辞典を調べました。小学館の『日本国語大辞典第六巻』には、「①人間の心。また、心の働き。肉体に対し、形而上的な働きをする実体としての心」とあります。さらに「②物質的なものを超越した霊妙な実在。たましい。霊魂。」とあります。精神は「たましい」だというのです。そして「③物事に執着する気持ち。目的を達成しようとする気持ち。気力。根気。」とあります。スライド変えてください。

【８】大乗淑徳学園校祖・輪島聞声法尼は、「魂の人」です。校祖28歳の年、京都遊学の際、男性僧侶ばかりの中に、ただ一人の尼僧として学問に打ち込みました。知恩院大学林を終えてからも36歳まで泉涌寺、永観堂禅林寺等で「大乗起信論」等の研究に打ち込みました。そして、1892年校祖41歳の年、「淑徳女学校」の開学にこぎつけたのです。学祖長谷川良信先生は、校祖の没後24年、1944年、昭和19年、淑徳高等女学校の第八代校長になっています。その翌年の昭和20年３月、東京大空襲で校舎が消失した際、学祖は涙とともに再建を誓ったといわれています。スライド変えてください。



【９】校祖輪島聞声先生が研究に取り組んだ『大乗起信論』を私も読んでみました。ここでは、二点、「体・相・用」と「薫習」について触れておきます。

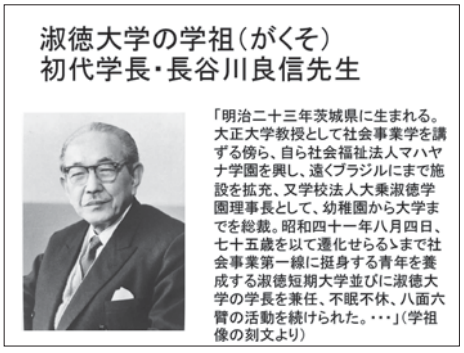
まず、物事を「体・相・用」の三面から捉える日本文化に特有のとらえ方が読み取れます。「体」は本質、「相」は現象、「用」は作用の意味です。平易な表現では「そのもの」、「すがた」、そして「はたらき」に相当します。たとえば、淑徳大学建学の精神「そのもの」は、「法輪」によって示されます。その具体的姿「すがた」が「善財童子像」であり、それは現実のこの世界にあっては「学祖長谷川良信」による社会事業、教育事業の「はたらき」として示されます。



次は「薫習」です。薫習とは「移り香」の現象を意味します。日々の人格的ふれあいによって、まるで「移り香」のように人柄が変わってきます。たとえば、善財童子はやがて文殊菩薩とそっくりになるでしょう。淑徳女学校の生徒は、やがて、どこか校祖に似てきます。学祖も生涯の恩師である渡邊海旭先生に似てきます。「善き師友」は向上進歩の力となるのです。スライド変えてください。

3

【10】さて次に、学祖はどのような人であったか。学祖像の刻文によれば、学祖は「明治23年茨城県の生れ。大正大学教授として社会事業学を講ずる傍ら、自ら社会福祉法人マハヤナ学園を興し、遠くブラジルにまで施設を拡充、又学校法人大乗淑徳学園理事長として、幼稚園から大学までを総裁。昭和41年、1966年８月４日、75歳を以て遷化せらるるまで社会事業第一線に挺身する青年を養成する淑徳短期大学並びに淑徳大学の学長を兼任、不眠不休、八面六臂の活動を続けられた。」とあります。スライド変えてください。



【11】八面六臂とは、顔が８つで腕が６本の仏像ですが、ひとり何人分もの仕事をしたということです。試みに学祖開設の主要な事業一覧を年表から拾い上げてみました。スライドをご覧ください。大正８年のマハヤナ学園開設以来、大乗女子学院（夜間）の開設、巣鴨家政女学校、巣鴨女子商業学校、真壁保育園、マハヤナ診療所。戦後になってからは淑徳与野高等女学校、淑徳農芸専門学校、淑徳幼稚園、淑徳小学校、児童養護施設「撫子園」、淑徳短期大学、ブラジル・サンパウロに「日伯寺」創建、さらに「日伯寺学園」、知的障がい児施設「イタケーラ子供の園」の開設、そして千葉に「大巌寺愛児園」を開設し、最晩年の昭和40年1965年75歳の年に「淑徳大学」を創立し、翌年に遷化されている。実に、不眠不休、まさしく八面六臂の活躍が想像されます。スライド変えてください。

学祖・長谷川良信（1890〜1966）
主な開設事業一覧

大正8年（1919）29歳「マハヤナ学園」を創立。34歳「大乗女子学院（夜学）」創設。35歳「巣鴨家政女学校（昼間）」に改組。／昭和6年（1931）41歳「巣鴨商業高校」に改組。42歳「真壁保育園」を開設。46歳「マハヤナ診療所」開設。

昭和20年（1945）55歳「淑徳与野高等女学校」を設立。56歳「淑徳農芸専門学校」を創立。57歳「淑徳幼稚園」を創立。58歳「淑徳小学校」を創立、養護施設「撫子園」を開設。60歳「淑徳短期大学」創立。63歳「日伯寺」を創建。65歳「大巌寺愛児園」を開設。67歳「日伯寺学園」を開設。68歳「イタケーラ子供の園」を開設。69歳「淑徳高等保育学校」を開設。昭和40年（1965）75歳「淑徳大学」を創立。

【12】昭和37年、1962年11月、「淑徳70周年に思う」と題する文章で、学祖は淑徳70年を振り返り、変化変遷激動の中にあって、「淑徳の魂」と「淑徳の精神」は微動だにしないこと、「徒に過去の伝統になずんで旧套を墨守し、時代と環境との目まぐるしい変化に目を掩うような木然人であってはならぬ」と戒め、この文章を「無限無窮の向上進歩の道程に立つ善財童子の如くありたいものである」という一文で締めくくっています。善財童子、それは学祖の理想像であったと言えるでありましょう。スライド変えてください。

学祖のことば

「過去の伝統になずんで旧套を墨守し、時代と環境との目まぐるしい変化に目を掩うような木然人であってはならぬ。まことに般若心経の教えるが如く、すべてを大観し広大なる視野の下に、日新又日新、行き往いて従容自若無限無窮の向上進歩の道程に立つ永遠の求道者善財童子の如くありたいものである。」（『長谷川良信遺滴』177頁）

【13】さて、東京キャンパス第４号館の正面玄関を入って右手に進むと、学祖の恩師、渡邊海旭先生の胸像があります。この胸像は、東京キャンパスだけにございます。胸像下の説明文を読みます。渡邊海旭先生は「東京浅草の生まれで、近代浄土宗の学僧。浄土宗海外派遣留学生で、明治33年、1900年から11年間ドイツに滞在。インド学、仏教学、宗教学の研究論文多数発表。帰国後、宗教大学、東洋大学教授歴任。旧制「芝中学」の校長として終始。仏教社会事業の先駆者として、明治44年1911年、浄土宗労働共済会（セツルメント）を設立。『大正新脩大蔵経』の編纂刊行に力を尽くした。仏教・教育・社会事業の分野で幅広い足跡を残し、多くの子弟を育てた。」とあります。渡邊海旭先生は、学祖生涯の恩師であり、善財童子にとっての文殊菩薩の如き存在であったと考えられます。スライド変えてください。

渡邊海旭（わたなべかいぎょく）

「明治5（1872）年〜昭和8（1933）年。東京浅草生まれ。近代浄土宗の学僧。浄土宗海外派遣留学生として明治33（1900）年より11年間ドイツに滞在。インド学、仏教学、宗教学の研究論文多数発表。帰国後、宗教大学、東洋大学教授を歴任。芝中学（旧制）の校長として終始。仏教者事業の先駆者として、明治44（1911）年、浄土宗労働共済会（セツルメント）設立。『大正新脩大蔵経』の編纂刊行に務めた。仏教・教育・社会事業の分野で幅広い足跡を残し、多くの子弟を育てた。」（胸像の刻文より）

学祖生涯の恩師
渡邊海旭（1872〜1932）

- 1912年宗教大学本科に入学した学祖は、宗教大学教授渡邊海旭が住職をしていた深川の西光寺で3年間、書生として起居を共にする。
- 徳富蘇峰は、「渡邊海旭師哀悼録」の中で、学者として「梵語学、哲学諸科、宗教学を修め来れる経歴に徴して、佛徒中有数」であるが、「師は学者よりも、寧ろ教育者、教育者よりも、寧ろ世相改善家であった」と評している。
- 学祖の生涯の恩師は、仏教者であり、学者であり、教育家であって、しかも社会事業家であった。ここに、学祖の理想的人間像を見ることができる。本学建学の精神の原点と言ってよいであろう。

【14】明治45年、1912年、学祖は、宗教大学本科に入学した年から３ヶ年間、宗教大学教授渡邊海旭先生が住職をしていた東京深川の西光寺の書生となって、恩師と寝食を共に

し、親しく指導を受けています。渡邊海旭について、近代日本の代表的時評家で歴史家であった徳富蘇峰（1863 ～ 1957）は、「学者として梵語学、哲学諸科、宗教学を修め来れる経歴に徴して、佛徒中有数」であるが、「師は学者より寧ろ教育者、教育者より寧ろ世相改善家であった」と評しています。このように、学祖の恩師は、仏教者であり、学者であり、教育家であって、しかも社会事業家でもあった。ここに、学祖の理想的人間像を見ることができると思います。本学建学の精神の原点と言ってよいと存じます。スライド変えてください。

【15】さて、それでは、善財童子の修行の物語を紹介します。子どもたちには「善財童子さまの大冒険」とか、「善財童子さまと長谷川良信先生」などと題して講演してきました。キャラクター化したためか、淑徳幼稚園や大巌寺幼稚園、淑徳与野幼稚園やマハヤナ学園撫子園、マハヤナ第二保育園、慈光保育園の子どもたちばかりか、淑徳共生苑の93歳になる入居者の方にも好評を頂戴しております。スライド変えてください。

【16】「わたしは善財童子です。華厳経入法界品に登場します。日本では奈良時代からとっても有名でした。次に、奈良東大寺の「華厳五十五所絵巻」に基づいて、わたしの修行の物語の一部をご紹介します。」スライド変えてください。

【17】「わたしの大好きな先生は、文殊菩薩さまです。文殊菩薩は獅子に跨り、右手に利剣、左手に青い蓮華の花を持っています。」利剣は「知恵」の、また蓮華の花は「慈悲」の象徴とされています。「三人寄れば文珠の知恵」と言いますが、智慧だけでは偏りが生じます。慈悲に基づく「利他の精神」が必要なのです。学問と実践の、両方ともに力を尽くすように、と言うことでしょうか。スライド変えてください。

5

【18】「獅子に乗った文殊菩薩さまの教えに、善財童子さまは、ホントに感動！」したンですね。スライド、変えてください。

【19】善財童子さまは「わたしも文殊菩薩さまのようになりたいな」と、ホントに思いました。すると、文殊菩薩さまはおっしゃいました。「それでは、善財童子よ！　南を目指して修行の旅にでかけなさい。」スライド変えてください。

【20】そういうわけで、善財童子さまは、修行の旅に出かけます。それは冒険の旅です。「さあ、しゅっぱつだよ！」スライド変えてください。

【21】実は、善財童子さまが指導を受けた先生は、53人もいます。華厳経では先生を「善智識」と呼びます。55か所で、53人の善智識の指導を受けています。なお、指導を受けることを、南を指すと書いて「指南」と言うのは、善財童子の物語に由来します。また、「東海道53次ぎ」も、善財童子の物語に基づくと言われています。「どんな先生に会えるかな？」「善財童子さまは、わくわく、どきどきです。」新入学生のみなさんは、卒業までに何科目、何人の先生の授業を履修することになるのでしょうか？　楽しみですね。スライド変えてください。

【22】善智識53人のうちから、次に紹介したい先生を３人選びました。３人のうちの一人目は、海門国の浜辺で修業する「海雲比丘」です。比丘とは、男性の修行者の意味で、子どもたちには、海雲法師さまと紹介しています。「海雲法師さまは、毎日毎日、来る日も来る日も、何カ月も何年も、５年も、６年も、７年、８年、９年、10年、11年、すでに12年も、ずっと、ずーっと、海辺に座って、海を見つめて、修行を続けていました。」スライド変えてください。

【23】「すると、海の中から、ナントナント、蓮華の花が現れてきて、それがみるみる大きくなって、ものすごーく大きくなって、海よりも大きくなって、その大きな蓮華の花の上に、如来さまが、阿弥陀如来さまがおいでになって、海雲法師さまに、この世の真実の教えを授けられました。」なお、

6

学祖は淑徳大学の開学に際し、プールを開設し、「海雲プール」と命名しています。これも、善財童子物語に由来します。スライド変えてください。

【24】三人目の先生は、勝熱バラモンという修行者です。刀の山で修行中の勝熱バラモンにお目にかかりますと、「善財童子よ、よく来た！　この山での修業はキビシイぞ！　刀の山に登り、火の海に飛び込むのじゃあ！」そんな無茶な話はありません。「そんなことしたら、死んでしまう！」と善財童子さまは思いました。でも、思い切って、飛び込みました。地上に着地するまでに、善財童子さまは、修行の邪魔になるものをすべて、振り払うことができたのです。

ところで、学祖は、宗教大学を卒業後、明治期を代表する財界人として著名な渋沢栄一が院長をしていた東京市養育院巣鴨分院に勤務します。激務の中、当時「死の病」と言われていた結核に罹り、南房総那古船形の療養施設に入院します。……大死一番、刀の山や火の海に身を投じる覚悟で帰京し、西巣鴨のスラム街「二百軒長屋」に移住します。スライド変えてください。

【25】善財童子さまの、もう一人の先生は、観自在菩薩さまです。観世音菩薩とも、観音菩薩、観音さまとも呼ばれています。観音さまのご指導を受けるために善財童子さまは、「険しい山並みの重なる、補陀落山をよじ登り、一年中雪が消えない高い山の上で、やっとお目にかかることができました。」善財童子さまは、観自在菩薩さまが世の中の人々の苦しみの声を聴き、その苦悩を受け止めて救い出そうとする固い誓願に基づいて、ひたすらに菩薩の道を歩む姿に接し、ホントに本当に感動し、心振える思いでいっぱいになったのです。菩薩の利他に徹した生き方、これを学祖は開学を前にして自ら作詞した大学歌の中で「菩薩道」と呼んでいます。（突然「淑徳大学歌」の該当する一節を歌う。会場諸氏は大喜び。）スライド変えてください。

【26】冒険の旅も終わりに近づきました。52人目の先生は、弥勒菩薩さまです。ミロク先生はおっしゃいました。「善財童子よ、たくさんの先生方のご指導を受けてきたが、旅の終わりに、一番大好きな文殊菩薩さまのところに戻りまさい！」「えっ、文殊菩薩さまに会えるの！　うれしいな、うれしいな！」スライド変えてください。

【27】文殊菩薩さまはおっしゃいました。「よくやった、善財童子よ！　修行の旅は、ここで一段落だが、ホントに、ホントにわたしのような菩薩になりたいのであれば、普賢菩薩さまのところに行って、修行を続けなさい！　こんどは、菩薩道の実践ですぞ！」スライド変えてください。

7

【28】牙が三本もある真っ白な象に乗った普賢菩薩さまは、善財童子におっしゃいました。「さあ、善財童子よ！　ともに、ボサツの道を歩んでいこう！」善財童子さまは思いました。「また新しい冒険の旅が始まるンですね！」

新入学生のみなさん、考えて見てください。幼稚園や保育園から小学校へ、小学校から中学校、中学校から高等学校、それから大学へ、さらに大学の先には大学院というふうに、新しい修行の旅は、まだまだ続いて行く、と考えられます。そして、「わが淑徳大学では、善財童子の修行物語に示されているが如き《菩薩道》を理想にしてほしい」と、そのように学祖は望んでいると思います。スライド変えてください。

【29】みなさん、今日の話はここまでです。大学生活の中で、「善き師友」に出会えるように祈念しています。最後に、法然上人の「つきかげ」をうたって、お別れです。ご存知の方は、ご一緒にお願いします。

【30】「つきかげの　至らぬ里は　なけれども　ながむる人の　心にぞ　すむ」

以上で終わりです。ご清聴に感謝します。（合掌）

【文献】

・中村元ほか４名編 2002『岩波仏教辞典第二版』岩波書店
・西尾実ほか２名編 2000『岩波国語辞典第六版』岩波書店
・木村清孝 1997『華厳経を読む』日本放送出版協会
・木村清孝 2014『さとりへの道～華厳経に学ぶ』NHK 出版
・森本公誠編 1998『善財童子求道の旅』東大寺
・小林圓照 2012「アジアを駆け巡る善財童子―『華厳経入法界品』の思想と文化―」GBS 実行委員会編『論集華厳文化の潮流』pp.7～21、東大寺
・長谷川よし子編 1967『長谷川良信遺滴』大乗淑徳学園事務局
・淑水道人・長谷川良信 1977『隨縁随想～仏教・社会事業・教育』マハヤナ学園
・金子保 2002『生涯発達心理研究～淑徳大学開学者・長谷川良信の生涯とその精神を中心に』学文社